



医学部長退任の御挨拶

退職、退任にあたって

琉球大学副学長（病院・研究・国際交流担当理事）

佐藤 良也

（前寄生虫学・国際保健学講座 教授）

琉球大学医学部医学科同窓会の皆様には、医学・医療の現場にて日々ご活躍のことと拝察いたします。この度、3月末をもって琉球大学医学部を定年退職し、合わせて大学院医学研究科長・医学部長を退任いたしました。思えば、昭和56年の第1期学生の入学とともに琉球大学に赴任し、ちょうど満30年の時を過ごさせていただいたことになります。この長きにわたり、大過なく務め上げることができましたのは、同僚教職員のご協力はもとより、同窓生各位の温かい励ましのお陰と深く感謝しております。

赴任当初は、まだ教育環境も全く整っていないなかで第1期生とともに苦労したことが思い出されます。現在の医学部キャンパスはまだ更地で、そこにポツンと建てられた解剖法医棟で始まった解剖学実習が琉球大学としての医学教育のスタートでした。当時は、数少ない学生と教員が互いに一体感をもって楽しみや悩みを共有していたと思います。学生諸君を自宅に招いての飲み会なども良くやりました。多くの卒業生を輩出した今、その絆を保ち、強めることが同窓会の目的だと思います。今回、別な意味で私も同窓の一人となりましたので、これからは同窓会を通して皆さんとの絆をさらに深めていきたいと希望しています。

さて、そのような中で平成20年4月から退職までの3年間、思いもかけず医学部長を仰せつかりました。その就任挨拶のなかで、法人化後の大学を教職員と学生・同窓生が協力して支え、発展させることの必要性を強調したつもりであります。

残念ながら、低迷する国家試験の合格率、附属病院での研修医の数が少ないこと、大学院生の充足率が低いこと等々、直接・間接に大学の評価につながる課題は依然として解決されておられません。十分に職責を果たせなかったことをお詫び申し上げますとともに、引き続き同窓の皆さんのご理解、ご協力がとても重要と考えています。新設される大学・学部は当然のことながら教員スタッフを外部に依存しなくてはなりません、設置から30年を経てなお本学医学科は依然として新設医学部の宿命を引きずっているように思えてなりません。もっと生え抜きの教員が増え、同窓生が気概をもって母校の将来を支えるような環境が早く整ってくることを期待しております。その意味において、同窓生各位の益々の精進とご発展を期待しております。

私ごとではありますが、4月からは病院・研究・国際交流担当の理事（副学長）として、引き続き全学の枠組みで大学運営に参加させて頂いております。もう暫くは医学科同窓会とも協力し、医学部医学科のために出来ることに微力を尽くしたいと考えておりますので、宜しくお願いいたします。

最後に、同窓会会員各位の益々のご活躍とご健勝を祈念しつつ、同窓会と医学部医学科の益々の発展を願って退職、退任のご挨拶といたします。